



【研究員卒業レポート】

交換した名刺から見えてくるもの

客員研究員 谷本 英樹
(宇和島市産業経済部商工観光課)

リーダーシップ論

センターで最初に名刺を交換した方は若松進一さんだった。以後、私がセンターで「地域づくり団体全国研修交流会愛媛大会」を開催するための実行委員会事務局を担当していた関係で、愛媛大会の実行委員長を務めていただいた若松さんは、2年間で最もお会いする機会が多かった方である。

若松さんからは、愛媛大会の実行委員長として、対外的には愛媛の地域づくりの分野の顔として、そして2年間にわたって分科会を担当した県内15の地域づくり団体をもとめていただいたこともあって、「リーダーとはどうあるべきか」ということについて、多くのことを教えていただいたように思う。

地域の一体化を図る

センター時代に交換した名刺ホルダー



また、若松さんをはじめ、えひめ地域づくり研究会議の運営委員さんのお話のほか、様々な地域のまちづくり活動を聞かせてもらう中で、「いかに地域としてまとまっていけるか」という「地域の一体化」について考えさせることが多かった。

まちおこしは、限られた人間ではできないわけで、「ヨソモノ」「ワカモノ」「バカモノ」論や、まちおこしをやるには3人の仲間が必要といったことをよく聞くが、まちづくりの先進地といわれるどの地域に行っても、様々な立場の方が連携し、協働した地域づくりを進めており、「地域ぐるみ」や「地域の一体化」というものを意識する機会が多かった。

最近では、「ソーシャルキャピタル」という言葉も使われているが、この「地域一体化」や「ソーシャルキャピタル」というものを、どのように自分の地域で実践するかが課題だと感じている。

大学生から教えられたこと

そして、交換した名刺を見ると、大学の授業に参加したり、「舞たうん」の取材で大学生に関係する団体を訪問したこともあってか、様々な学生と名刺を交換する機会が多かった。

私が名刺を交換した学生達だけなのかもしれないが、近頃の学生達は非常に習得意欲が旺盛のように思う。どんなことでも吸収しよう、自分が社会のためにチャレンジしようと考えている学生は多い。

ゆえに、人の話を熱心に聞くと、自分

財団法人えひめ地域政策研究センター（以下、「センター」）に在籍した2年間に交換した名刺の数はおよそ800枚。これまでの役所生活で交換した枚数のほぼ20倍である。それだけ自分がいかに多くの人と出会い、様々なことを学んだわけであるが、せっかくこのような寄稿する機会をいただけただけでもあり、このあたりで自分なりに少し頭の整理をしておき、今後の活動の指針とすることとしたい。

たちでも議論をする。そして自分たちで何かできないか、まず行動に移す。

正直な話、彼らは学生時代の自分とは雲泥の差であり、学生達のパワーを目の当たりにして、自分も頑張らねばと思っている今日この頃だ。

地域の一体化のために 自分ができること

「地域の一体化」に最も必要なことは、「思いを持った人をいかに多く増やし、その進むべくトルが共有できるか」ということになると思う。

そこで、センターでの経験を活かし、自分ができることは何かと、いろいろな人が出会って、考える場をつくること、言いかえればネットワーキングの前提となる「きつかけづくり」から始めてみようと思ひ、私が塾生として参加させていただいている宇和島市生活文化若者塾「拓己塾」に



まちづくり公開講座の様子

おいて、仲間と共に「まちづくり公開講座」と命名した「きつかけづくり」を行っている。

まちづくり公開講座

まちづくり公開講座では、毎回、様々なまちづくりのテーマを設定し、私がセンター在籍時に出会った方を中心に講師として呼びびし、塾生の

他、一般の方にも公開して講演会をした後、講師を囲んで参加者有志で交流会を実施している。

これまで合計4回の講座を実施したが、講師についてもなるべく20代や30代の若者を選んでいく。やはり同じ世代で頑張っている人から話を聞くのは刺激を受けるし、その後の交流も盛り上がると思いかからだ。

また、毎回様々なテーマで講座を開催することもあつてか、塾生以外の一般からの講座受講生の所属も、若手の行政職員はもちろん、農業後継者や養殖業

従事者、地域福祉関係者、若手の経営者や商店街関係者など実に様々である。

ゆえに、このまちづくり公開講座は、参加者同士の異業種の交流が図れる場所ともなっており、講座終了後に受講生同士で連絡をとりあつて独自にネットワーキングを行う事例もあるなど、少しずつ地域づくりの輪に広がりを見せている。

まちづくりには時間がかかる

まちづくりの先進地といわれている地域は、そのほとんどが10年、20年と息の長い活動の成果が表れているところばかりであり、その活動の原資には必ずといっていいほど、住民自身の自主的な学習や交流といった地道な「人づくり」、いわば「地域づくりの種まき」の活動がある。

こういった地道な「きつかけづくり」、「人づくり」をこれからも実践しながら、私もこれまで名刺を交換した学生達に負けないように行動し、仲間と共に一緒に成長していきたいと考えている。

最後になりましたが、2年間、たいへんお世話になりました。この場をお借りして御礼申し上げます。